

情報通信審議会 情報通信技術分科会 放送システム委員会 衛星放送用受信設備作業班（第 1 回）議事概要（案）

1 日 時

平成 28 年 9 月 29 日（木） 10 時 00 分～10 時 50 分

2 場 所

総務省 8 階 第 4 特別会議室

3 議 題

- (1) 「衛星放送用受信設備に関する技術的条件」の検討について
- (2) 提案募集の結果について
- (3) その他

4 出席者（順不同、敬称略）

【構成員】 後藤主任（情報通信研究機構）、佐野（テレコムエンジニアリングセンター）、沼尻（電子情報技術産業協会）、加藤（電波技術協会）、中野（電波産業会）、杉本（日本CATV技術協会）、宇佐美（放送サービス高度化推進協会）

【事務局】 小川、糸（情報流通行政局放送技術課）

5 配付資料

- 資料 I F 作 1-1 衛星放送用受信設備に関する技術的条件の検討について
- 資料 I F 作 1-2 提案募集の結果について
- 資料 I F 作 1-3 検討の進め方（事務局案）
- 資料 I F 作 1-4 衛星放送用受信設備作業班 2.5GHz 帯アドホックグループの設置要綱について（案）

参考資料 衛星放送用受信設備に関する技術的条件の検討について
（第 55 回放送システム委員会資料）

6 議事概要

議事次第に沿って調査検討を行った。議事概要は以下のとおり。

(1) 「衛星放送用受信設備に関する技術的条件」の検討について

事務局より資料 I F 作 1-1 及び参考資料に基づき説明があり、案のとおりに承認された。

(2) 提案募集の結果について

事務局より資料 I F 作 1 - 2 に基づき説明があり、主に以下のとおりの質疑が行われた。

- 現状の既設設備と、今後新規に設置される設備の切り分けを明確にして議論を進めるべき。(沼尻構成員)
- 我々もそう考えて検討している。古い既設設備で漏洩を起こしている可能性が高いもの、新規の中でも十分なシールド性能を持ったものとそうでないものがあり、実態をまず把握した上でそれぞれに見合った施策を取っていくのが必要。基準作りには2つの側面があると考えている。1つは市場に投入される商品で漏洩を起こす恐れがあるものを抑止する役割、もう1つは混信が発生した時の問題の切り分け基準。(事務局)
- パブコメの意見募集期間が2週間というのは一般的なのか。(後藤主任)
- 提案募集期間としては妥当と考えている。(事務局)

(3) その他

事務局より資料 I F 作 1 - 3 に基づき説明があり、主に以下のとおりの質疑が行われた。

- 2.5GHz帯を優先することは理解できるが、最終的には3.2GHzまでの帯域が保障される基準作りをするという意味合いで良いか。(宇佐美構成員)
- 大きな考え方として、漏洩のない製品を世の中に出して行って4K・8Kの普及促進を図り、その過程の中で古い設備を置き換えていく。今回はまず2.5GHz帯から検討できればと考えているが、当然中間周波数が使用する全帯域が検討対象であると考えている。(事務局)
- 資料には2.5GHzと記載されているが設備的には3.2GHzまで共通であり、2.5GHz帯を注目して検討するが実際は3.2GHzまでの全帯域の対応になると考えている。
また、右旋の周波数帯が広がると障害が発生する恐れがあり、十分検討した上で使うかどうかの判断をする必要がある。(加藤構成員)
- CS左旋に対応した機器がまだそれほど市場に浸透しておらず、それをどう普及させていくかも今回の漏洩対策の表裏一体の課題と認識している。右旋の周波数追加については、2.5GHz帯の議論が落ち着いてから必要があれば検討する。(事務局)

質疑後に事務局より資料 I F 作 1 - 4 に基づき説明があり、案のとおり承認された。

この後事務局より、次回の作業班の開催については10月19日を予定している旨連絡があった。